

第1回山形県幼児教育推進連携協議会〔議事録概要〕

期日：令和7年5月20日（火）

場所：山形県教育センター 講堂

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 委嘱状交付
- 4 委員の紹介
- 5 概要説明

◆質疑応答

<委員>

- ・資料の説明があったが、我々保育所にはこのような資料が送られてきたかどうか不明で、見た記憶がない。この辺が幼児教育センターをつくるとよい連携につながっていくと考えている。

<委員>

- ・具体的な内容を示すことは難しいのかもしれないが、カリキュラム開発会議の位置づけについて、本会とのかかわりはどうなるか。アドバイザーの育成はどのような形でアドバイザーになっていく方を想定しているか教えてほしい。

<事務局>

- ・カリキュラム作成に向けた協議を行っていく場を設定していく。もしかすると本協議会がそれにあたる可能性もある。必要な検討内容のひとつであると考えている。
- ・アドバイザーの育成については、これからまだまだ整理していかなければならない。幼稚園や保育園での経験がある方やマネジメントのご経験がある方等を中心に想定して、幼児教育センターから御依頼をしていくというような想定である。具体的にどのように進めるかについては、未定である。あくまでも現時点での事務局としての想定。

<委員>

- ・小学校の校長先生やこども園、保育園の元園長先生を経験された方などを想定していると思うのだが、現職の職員がアドバイザーになることも想定されているか教えてほしい。

<事務局>

- ・ゆくゆくはそういった方につないでいくという想定はある。今後様々な可能性を含めて検討していくことだと考えている。

6 講義「幼保小の架け橋が目指すもの-連携体制の構築に期待すること-」【調査官】

◆質疑応答 なし

7 協議 山形県の幼児教育推進の方向性について

<会長>

- ・本日は県の幼児教育推進の方向性について、幼保小接続と幼児教育の更なる質向上のために、皆さんの立場から、それぞれが担う役割や今後の取組み、幼児教育センターに期待することの2点についてご発言いただく。

<委員>

- ・幼稚園協会としましては、幼児教育の質を担保するために、山形県内を4地区に分けて、公開保育を2年に1回行っている。先生たちがなかなか現場から離れられないという現状があり、園内研修でつないでいる。幼児教育センター設置が山形県だけ進んでいないというのがここ何年か感じていたため、ぜひ作ってほしいと要望させてもらっていた。
- ・地域の子どもたちが同じような教育を受けられるようにするためには、先生たちの質が大事である。人的環境を大事にするためには、幼児教育センターから各園を訪問してもらい、先生たちの質向上に働きかけるようになってほしい。
- ・それを基に幼保小連携を充実させたい。まずは設置が大事だが、設置で終わらずに質を担保できるようなセンターの役割を期待している。

<委員>

- ・今回幼児教育について改めて勉強する機会ができてよかった。その大切さについて改めて考えさせられた。
- ・保育園は幼児教育について関連が薄いところがあり、県教育委員会からの連絡等も保育園の方に届かないところがある。
- ・教育にも力を入れてきたが、幼稚園イコール教育というイメージがついており、幼保一元化で、ようやく少しずつ保育園における幼児教育が認められてきたと感じている。
- ・末端の職員まで伝わるような研修会等ができないかなと考えている。ぜひ保育所という分野でも幼児教育に力を入れていただければと思っている。今後とも皆様と力をあわせていきたい。

<委員>

- ・山形県の幼児教育をひとつにしてほしい。山形県の幼児教育は何のためにするのかということを、施設に関係なく、幼稚園、保育所や管理部署等に限らず、ひとつにしてほしい。保育所も教育を行っている。保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園指導要領と本当にばらばらである。山形県だけでもひとつにしてほしい。山形県の幼児教育をひとつにすることがスタートではないかと考えている。

<委員>

- ・山形市の幼保小連絡協議会の中でもいろいろな論議になっている。我々保育の部分が、小学校、幼稚園と共有する場がない。なかなか我々の考えを反映する場がない。歴史上

のつくりからなかなか難しいことは理解しているが、今回の架け橋はそういう垣根をなくし、ひとつになるということがすごく大事になるのではないかと考えている。そこが一番肝になると考えている。

- ・山形県の幼児教育センターの設置は後発の部分がある。こども家庭庁は幼児教育センターが設置されていることが前提で動いている。小学校接続加算は、センターがあると上の加算を受けられる。民間の我々からすると、その収入が受けられないという状況もあるということを、行政側に認識してほしい。
- ・0歳から18歳でかかわってくる、小学校への接続で貢献していきたい。

<委員>

- ・専門性が高い研修と幼児教育アドバイザーの活躍に期待している。
- ・0歳からの教育がとても重要である。幼児教育でどんな体験を積んでいるかが人生の豊かさを変えていく。私たちが研修を積んで、幼児教育センターにはぜひそのようなことを期待している。
- ・質の高い保育を提供しようと努力しているが、遊びの理解が難しい。どのように学びにつなげていくか、小学校につなげていくかが難しいので、幼児教育センターでも力を発揮してほしい。
- ・架け橋プログラムについてかなり研修をしている。県から出されているチラシ等も、幼保小で連携する際に、事前に「このような視点で見てください」とお話ししたうえで見ていただき、デザインシートに基づいて話をしている。少しずつ小学校の中で授業が変わってきている。学級経営が変わったとか子どもとの向き合い方が変わった、幼稚園の姿を見て、小学校につなげていくと、必ず成果が出る。行政のリーダーシップがなければ架け橋プログラムの実施はなかなか難しいと思うため、ぜひとも推進してほしい。

<委員>

- ・年長の子が小学校へ行くとガクッと落ちる。幼稚園からの姿を活かすとガラッと変わる。幼稚園や保育園で育てていただいたことを、そのまま小学校で生かしていくということがこれからますます求められる。
- ・自立した学習者を育てたい。学習環境を整えることで、子どもたちが自らの主体性にそって学びを続けていく。これをいかに小学校全体に広げていくか、幼稚園全体に広げていくかが大事。この思いを共有して、ダウンさせず、アップし続けていくことが、幼児教育センターに期待することである。

<委員>

- ・教職志望の学生たちに対して、小学校につながる幼児教育のポイントを周知していく立場と研究支援を行う立場がある。
- ・県内の幼児教育の質は高いと感じている。他県の様々な幼稚園等にかかわっているが、山形県の幼児教育は質が高い。課題は、小学校との接続がうまくいっていない。うまくいっているところがほとんどない。
- ・学生に対しては、何が障害となっていて何が課題となっているかを伝えているが、今後課題となるのは主に小学校の先生方の意識を変えていくことが大事だと思う。学習

指導要領の総則の接続の内容について、十分に周知していく必要がある。

- ・ 幼児教育センターができるということは、これからの山形県の子どもたちの未来を築くのにとても重要であり、期待している。

<委員>

- ・ 保育の方法の「いかに遊びこめるか」というところにかかわることが多い立場である。
- ・ 幼児教育センターができて、アドバイザーが派遣されていく場合、先ほどの県の想定していたメンバーだとダメだと思う。元幼稚園の園長先生や校長先生等だと、どうしても外の空気が入らないため、変わらない。例えば、遊びが学びだというのであれば、遊びの専門家に入ってもらふことや、多職種連携をしなければ、質はよくなならないと考えている。

<委員>

- ・ 一番大事にしたいことは、保育業界を目指す人たちを増やしたい。現在、保育士や幼稚園教諭を目指す子たちが減っている。今後、子どもを育てる上で、保育者養成が大事になる。
- ・ 学生たちには、できるだけ実体験を大事にして、実際に自分が体験して面白いと感じることや、遊んで自分の中で課題を見つけてもらうことが大事だと考えている。
- ・ そういう経験をした保育者がおもしろいを伝える、導く、いいサポートができる。
- ・ 幼児教育センターに期待することとして、架け橋のスペシャリストを養成するプログラムをつくってほしい。
- ・ 地域を愛するという観点を入れてほしい。山形県の子どもたちは、地元より県外にアコガれを持って出ていこうとする子が多いように感じる。山形県の風土、地域独特の文化に誇りを持てるよう、幼児教育も小学校も地域文化との交流はたくさんあると思うが、そういった機会を使いながら、気持ちが育つようなプログラムをぜひ考えていただければと思う。

<委員>

- ・ 幼児教育のさらなる質の向上という点では、山形市幼保小連絡協議会というものを設置し、小学校、幼稚園、認定こども園、保育園の教育にかかわる連絡、連携を図っている。スムーズに小学校教育につながるよう様々な事業を行っている。
- ・ 昨年度、幼保小の連携強化について教育委員会と話し合いを行い、今年度より架け橋期のカリキュラムの編成について進めていく予定である。今後も、事務局に加わり、力を入れていく。
- ・ 教育委員会と市長部局との連携・強化が重要と考えており、さらに強化していきたい。
- ・ 山形市長から、早期に幼児教育センターを設置してほしいと意見を提出させてもらっており、期待もしている。
- ・ 幼保小の連携の必要性の意識について、関係者の中でも差があると考えている。まずは、関係者の中でも相互理解を深めることが必要になると考えている。幼保小の円滑な接続と幼児教育の重要性について研修会等を広く周知してもらい、特に異動がある小学校の先生方に意識改革が起きるようにしてほしい。
- ・ 山形市においても幼児教育アドバイザーの設置を検討しているため、アドバイザーの

育成について支援してほしい。

<委員>

- ・交流を図るために、年3回合同園長会を行っている。また、保育参観、ワークショップ等のお互いの資質向上を図るための研修を行っている。
- ・小学校との接続については、立地的に隣接しているところが多く、連携がしやすく、様々な連携が実際に行われている。
- ・所管が異なるというところがあるので、県としての指針が示されれば、それをどのように浸透させるかという情報共有や研修が大事になると考えている。
- ・教育と保育の垣根はなくなってきているため、県の指針によって一体化されていけばいいと思う。

<副会長>

- ・部として、こども計画の中で幼児教育を推進するということをうたっており、事業の柱のひとつとして進めていきたい。
- ・事務局からあったロードマップを踏まえながら、必要となるとりまとめを進めていきたい。その際には皆様からのお知恵をお借りしたい。